

新発田市 令和元年度 第12回定例記者会見

1 日 時 令和2年3月3日（火）午前11時～

2 場 所 ヨリネスしばた502会議室

3 内 容

- 新型コロナウイルス感染拡大防止の取組について
- 健康長寿アクティブ交流センター オープニングセレモニー
- 新発田市ふれあい福祉センター 開所式
- 東京2020パラリンピック聖火フェスティバルの実施概要決定

あいさつ

- 報道でご存じのとおり、容易ならざる事態が発生しています。当市では、新型コロナウイルスが全国で猛威をふるう前から、大変なことになるだろうという予想のもと、どこよりも早く警戒本部を立ち上げて、一定の準備をしてきました。
- その準備の一つに、県内で一例でも感染者が発生した段階で、すぐに対策本部に切り替えるということを決めていたので、新潟市での事例が出ると同時に対策本部を立ち上げました。
- 関係課に対し、すぐに初動態勢を取るよう指示し、本日、第2回対策本部会議を開催しました。
- 幸いなことに、まだ市内では感染例はありませんが、もう食い止めるという段階ではなく、市内での発生もあるだろうという想定の中で、対策を打ち、万全を期して市民の皆さんの生命、健康を守るために、情報の共有や注意喚起の内容等について決めさせていただいたところです。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に、「新型コロナウイルス感染拡大防止の取組について」

- 当市では1月31日に、新型コロナウイルスに関する連絡調整室を、2月17日には、県内他市町村に先駆けて、警戒本部を設置しました。

- そして、2月29日には、県内で感染が確認されたことを受け、警戒本部から、私が本部長を務める対策本部に移行し、引き続き感染拡大防止に取り組んでいます。
- これまでも、成人式の延期など、市主催事業の実施の可否などを検討しながら適切な対応に努めていますし、全小・中学校の休校措置並びに学童保育や保育園・認定こども園等の業務継続等の判断を行いました。
- 特に、小・中学校休校に伴っては、児童・生徒の安否確認や、子どもたちが長期間にわたり行動が制限されることでの影響、また、小さなお子さんをお持ちの保護者の方のご心配など、さまざまな課題があるのは事実です。
- また、市の公共施設のほとんどを3月15日まで臨時休館とするなど、多くの市民の皆さんに対し、ご不安とご不便をお掛けしていると思います。
- こうしたことを踏まえ、市民の皆さんの不安解消につなげるため、3月1日からコールセンターを設置し、これまでに40件ほどのお問い合わせをいただいています。
- 内容としては、市のイベント中止についてが半数ほどで、そのほか、公共施設の休館や保育や小・中学校休校についての問い合わせとのことでした。
- 以上のことからすると、市民の皆さんもこの度の事案に対し、何らかの準備をしてくださり、市内で、今のところ大きな混乱は起こっていないようです。
- また、学童保育に加えて子どもたちの居場所を提供するため、祝日を除く3月4日（水）から3月23日（月）まで、市内すべての小学校で「自習ルーム」を開設することにしました。
- ただし、利用できるのは、市内の小学校に通う1年生から3年生の児童で、日中、就労等で保護者などが子どもの面倒を見ることができない家庭であることが条件になります。

- そして、もう一つ心配なのが経済面への影響です。市では、売り上げ減少などの損害出ている、または、今後の資金繰りに支障をきたす恐れがある中小企業者に対する支援策を行うことにしました。
- 内容は、2月28日から県が行っている「新潟県セーフティネット資金」を利用する場合に、信用保証料を市が補給することにいたしました。支援期間は、3月9日（月）から来年度末までを考えています。
- 加えて、緊急的な経済対策が必要な月岡温泉をはじめとした宿泊業の皆さんと、意見交換を行っていきたいと思っています。収束後には、すぐにキャンペーンを行えるよう、関係者の方と相談しながら全力で取り組んでいきます。
- 次に、飲食業の皆さんへの影響についてです。商工会議所が中心となり、会員の皆さんに緊急アンケートを実施したと聞いています。
- この結果を踏まえて、何らかの対策を講じていかなければならないと思っています。
- これまでの対応について、さまざまな意見もあると思いますが、まずは、市民の皆さんの健康や安全を第一優先と考えてのことですので、ぜひともご理解・ご協力をいただきたいと思いますと考えています。
- 毎日さまざまな報道がなされる中で、実際に市民の方からは、医療機関への受診方法や、マスクやアルコール消毒の供給不足などについての相談が寄せられているとの報告を受けています。
- 国では、「今がまさに、感染の流行を早期に収束させるために、極めて重要な時期である」としています。
- 市内でも大きな影響が出ていますが、市民の皆さんの不安の声に対して、じゅうぶんに耳を傾け、引き続き、丁寧な対応に努めていきたいと考えています。

次に、「健康長寿アクティブ交流センター オープニングセレモニー」について

- 4月1日（水）に、「健康長寿」の拠点施設となる「健康長寿アクティブ交流センター」が、いよいよオープンします。
- 4月5日（日）には、オープニングセレモニーを行うことにしており、現在の地域交流センターを利用している団体の方がアトラクションを行うなど、市民の皆さんと一緒に開館を祝うため、準備をしているところです。
- まちづくりの柱の一つ「健康長寿」では、「赤ちゃんから高齢者まで、地域でいきいきと暮らし続けるまち・しばた」を基本理念とし、それぞれのライフステージに応じた取組を進めていきます。
- その中で、「平均寿命新潟県トップ」「健康寿命の延伸」を具体的な目標として掲げていますが、これらの達成に向けた方針を定めたものが「健康長寿アクティブプラン」になります。
- このプランの特徴として、これまでの縦割りのスタイルではなく、「健康長寿」を合言葉に、市民、地域、企業、学校、関係機関、行政が横断的に連携し、「オールしばた」で取り組むことが挙げられます。
- 「健康長寿アクティブ交流センター」は、プランを実践するベースとして活用する施設であり、世代を超えた交流や生きがいづくりなどができる「場」として、ぜひ多くの皆さんにご利用いただきたいと思います。

次に、「新発田市ふれあい福祉センター 開所式」について

- 4月2日（木）に、障がいのある方やその家族を支援する拠点施設として新設する「ふれあい福祉センター」の開所式を行います。
- 同センターには、障がいの種別などにより別々の施設に設置されていた相談窓口を一元化し、障がいに関する総合窓口として「障がい者基幹相談支援センター」を設置します。

- これにより、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいの相談が一つの窓口で受付可能になり、地域の相談機能が高まることを期待しています。
- また、「子ども発達相談室」を同センター内に設けるとともに、「障がい者基幹相談支援センター」に教員経験者を配置することで、乳幼児期から成人期まで切れ目のない細やかな支援が実現できるようになります。
- 加えて、地域子育て支援センターを併設することで、障がいの有無に関わらず利用できる施設となり、障がいへの理解促進にも寄与できるものと思っています。
- 以上により、障がいのある方はもちろんこと、そのご家族のニーズに寄り添った質の高いサービスにつなげていきます。

次に、「東京 2020 パラリンピック聖火フェスティバルの実施概要」について

- いよいよ、今年夏に東京 2020 パラリンピックが開催されます。これに伴い、当市で行う「聖火フェスティバル」の実施概要が決定しました。
- 実施日は 8 月 16 日（日）の予定であり、パラリンピック組織委員会の考え方をもとに、当市のコンセプトを『新しい発想』と『多様な光』の融合により、新しいパートナーとともに歩む新発田の未来」としました。
- このコンセプトを体現するため、新発田市ロボコン教室の児童・生徒が制作したロボットを使って採火し、新発田竹俣特別支援学校の児童・生徒が、その灯火をランタンに納火するセレモニーを行います。
- 「新しい発想のシンボル」を市内にあるロボット教室の子どもたち、一方で、「多様な光のシンボル」を特別支援学校の子どもたちとして、両者が聖火を通じて融合することをイメージしています。
- 新型コロナウイルスの関係で、開催そのものが危ぶまれるような報道もなされていますが、これまで鍛錬を重ねてきた選手の皆さん、そして国民、

新発田市民が楽しみにしている世紀の祭典ですので、無事開催されることを願いたいと思っています。

本来であれば、本格的に春を迎え、市民をはじめ多くの皆様に「新発田の春」を存分に楽しんでいただけるはずでありました。

しかしながら、今回は新型コロナウイルスの関係で、イベント等が軒並み中止等の措置を取っているため、残念ながらこのほかの情報はありません。

次回の定例記者会見では、ぜひとも新発田の明るい話題をお伝えしていきたいと思っていますので、今後ともよろしく申し上げます。

また、先に紹介した「健康長寿アクティブ交流センター」と「ふれあい福祉センター」の2つの情報については、新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては影響を受ける可能性があることをご承知おきくださるようお願いいたします。